

マンションの大規模修繕工事

赤谷慶子

吾人居せる集合住宅は三十五世帯居住しおをり、弥生初旬より十五年ぶりの大規模修繕普請に着工せり。まづ足場の組まるる前に夫々の露台に置きたるものより片付けを要求せられき。めづらしきインド菩提樹と観音竹、枇杷の木等を植木屋に渡し、皐月ごろ鉢の植替へせる上に普請の終はる七月まで預くる事にせり。不要なる物は集合住宅西側にまうけられし大いなる回収用のゴミ箱に廃棄すべき事になれど、夥しき量となり、大きなトラック回収しゆきたり。北側にも足場を組む案なれど、半ばまで完成したる所にて、我愛車駐車場の出入り叶はぬこと、明らかとなれり。通常の足場の組み方にては愛車を含め十六臺の車、出入りに難渋す。従ひて案改め、北側のみ上より舟の如くにぶら下ぐる足場を組む事となれり。足場はいまだ不完全なる有様なれど、修繕普請は始まり、日ごろの騒音の凄まじき事この上なし。皐月までは音の大きな修繕多く、その後は静かになると理事長より聞けど、まことか否か不明なり。露台も含め、窓は締め切り、幕も閉めなむと工事業者の頼みなり。作業中家の中の見ゆるは作業員も避けたりか。足場を伝ひて怪しき人上階に上がる可能性ありて、各窓に設置するロックも配られき。初夏に窓開け放ち風通しもままならず息苦しき事よ。憂きことなれど受け入るるの外なし。かかる長期間、良く考ふると難儀な事ぞ。

(令和八年三月三十一日受附)